



## アプリケーションマクロから KeySQL マクロへの変換手順について

### 目次

アプリケーションマクロから KeySQL マクロへの変換手順について.....	1
Excel VBA マクロを KeySQL 8 で読み込む.....	2
概要.....	2
手順.....	2
書き換え対象の抽出.....	3
関数の書き換え.....	3
KeySQL マクロファイルの作成.....	4
Excel VBA マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表.....	6
DDE マクロを KeySQL 8 で読み込む.....	9
概要.....	9
手順.....	9
書き換え対象の抽出.....	10
関数の書き換え.....	10
KeySQL マクロに変換できない関数.....	11
KeySQL マクロファイルの作成.....	11
OOoBasic マクロを KeySQL8 で読み込む.....	12
概要.....	12
手順.....	12
書き換え対象の抽出.....	13
関数の書き換え.....	13
KeySQL マクロファイルの作成.....	14
OOoBasic マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表.....	14

## Excel VBA マクロを KeySQL 8 で読み込む

### 概要

Excel VBA マクロでは、KeySQL の機能呼び出ししている箇所のみ、KeySQL マクロに変換可能です。

KeySQL の機能呼び出ししている VBA マクロの関数を抜き出し、KeySQL マクロ用に関数を書き換える必要があります。

VBA マクロにおいて、KeySQL の機能呼び出ししている関数はすべて「KeySQL」で始まる名前になります。

### 手順

以下のコードは検索項目に SCOTT.EMP 表の EMPNO のみを指定し作成した VBA です。  
(コメントは省略)

```
Public Sub KeySQLSampleMacro()  
    Range("A1").Activate  
    On Error GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLConnect2("Oracle","Oracle11GR1","SCOTT","tiger","")  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    On Error GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLLocalAlias(False)  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLClear()  
    Status = KeySQLFrom("SCOTT.EMP")  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLSelect(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","","",False,False)  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLActiveSheet("一覧")  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLExecute("", "", 0, 0)  
    If IsError(Status) Then GoTo CloseAndQuit  
    Status = KeySQLLogout()  
CloseAndQuit:  
End Sub
```

## 書き換え対象の抽出

上記の VBA マクロから KeySQL の機能呼び出す関数を抜き出したものは次の通りです。

```
KeySQLConnect2("Oracle","Oracle11GR1","SCOTT","tiger","")
KeySQLLocalAlias(False)
KeySQLClear()
KeySQLFrom("SCOTT.EMP")
KeySQLSelect(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","","",False,False)
KeySQLActiveSheet("一覧")
KeySQLExecute("","",0,0)
KeySQLLogout()
```

## 関数の書き換え

旧 Ver. の KeySQL で出力された VBA をテキストエディタ等で開き、マクロの書き換えを行います。書き換えの詳細は、後述する「[Excel VBA マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表](#)」を参照してください。

### 例 1

- KeySQLConnect2("Oracle","Oracle11GR1","SCOTT","tiger","")  
KeySQL マクロではログインを行わないので削除します。

### 例 2

- KeySQLLocalAlias(False)  
ローカル別名は KeySQL 8 では対応していないため削除します。

### 例 3

- KeySQLClear()  
KeySQL マクロ関数の Clear() へ変更します。

以上のように対応する関数の書き換えを行い、KeySQL マクロ用に行末にセミコロンを追加したものが次のものになります。

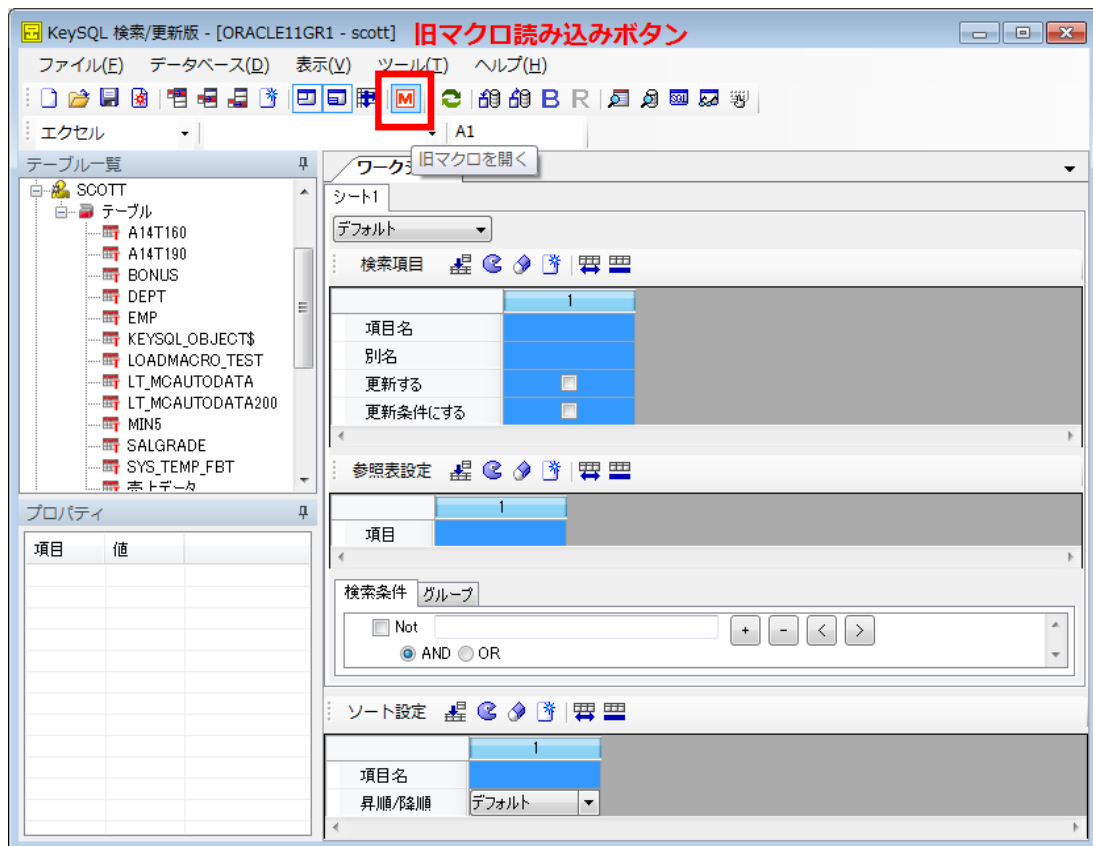
```
Clear();
From("SCOTT.EMP");
Select(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","","",False,False);
Execute("エクセル","",0,0);
```

## KeySQL マクロファイルの作成

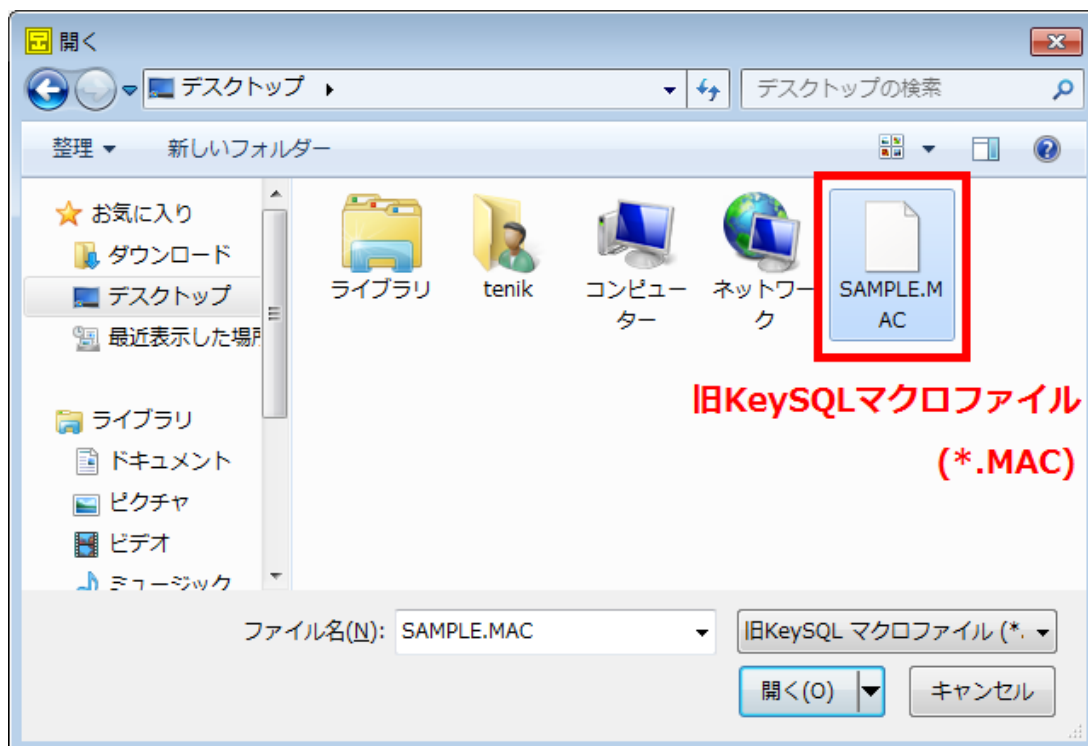
書き換えを行ったら、KeySQL マクロファイル(SAMPLE.MAC 等)として保存します。

これでマクロファイルが完成したので、KeySQL 8 から「旧マクロを開く」ボタンで作成したファイルを開きます。

「旧マクロを開く」ボタンを選択します。



これまでの過程で作成した KeySQL マクロファイルを選択し開きます。



以上の操作で、KeySQL 8 の画面上に旧マクロの内容が再現されます。

Excel VBA マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表

Excel VBA マクロ	KeySQL マクロ	変換例 引数の変更
KeySQLActiveSheet	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLBind	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLClear	Clear	KeySQLClear() ↓ Clear() 引数変更無し
KeySQLCondition	Condition	KeySQLCondition(w,"A.B = C.B AND A.D>=10") ↓ Condition(w,"A.B = C.B AND A.D>=10") 引数変更無し
KeySQLCrossCondition	CrossCondition	KeySQLCrossCondition("クロス集計 2","A.D = 10") ↓ CrossCondition("クロス集計 2","A.D = 10") 引数変更無し
KeySQLCrossSide	CrossSide	KeySQLCrossSide("クロス集計 1",1,"地区",A) ↓ CrossSide("クロス集計 1",1,"地区",A) 引数変更無し
KeySQLCrossTop	CrossTop	KeySQLCrossTop("クロス集計 1","商品名",D) ↓ CrossTop("クロス集計 1","商品名",D) 引数変更無し
KeySQLCrossTopIndex	CrossTopIndex	KeySQLCrossTopIndex("クロス集計 1",1,"地区",A) ↓ CrossTopIndex("クロス集計 1",1,"地区",A) 引数変更無し
KeySQLCrossTotal	CrossTotal	KeySQLCrossTotal("クロス集計 1",1,"販売個数",S,"合計") ↓ CrossTotal("クロス集計 1",1,"販売個数",S,"

		合計") 引数変更無し
KeySQLDefMacro	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLExecfile	Execfile	KeySQLExecfile("sample.mac") ↓ Execfile("sample.mac") 引数変更無し
KeySQLFrom	From	KeySQLFrom("DEPT a,EMP b") ↓ From("DEPT a,EMP b") 引数変更無し
KeySQLInsert	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLLoad	Load	KeySQLLoad(BIND,"test",TRUE) ↓ Load(SETUPD,"test") 第 1 引数が SETUPD または FILE の時のみサポート。 第 3 引数は無視され、常に FALSE として扱われる。
KeySQLLocalAlias	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLLogout	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLPut	Put	KeySQLPut("従業員. 部門番号 = 部門. 部門番号") KeySQLCondition(w,"AND 従業員. 給与 >= 300000") ↓ Put("従業員. 部門番号 = 部門. 部門番号") Condition(w,"AND 従業員. 給与 >= 300000") 引数変更無し
KeySQLSave	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLSetupD	SetupD	KeySQLSetupD("Option.ShowCountAtSelect = Off") ↓ SetupD("Option.ShowCountAtSelect = Off") 引数変更無し
KeySQLSelect	Select	KeySQLSelect (1,"MAX(DEPT.DEPTNO)","DEPTNO",

		MAX 値") ↓ Select (1,"MAX(DEPT.DEPTNO)","DEPTNO"," MAX 値") 引数変更無し
KeySQLConnect	KeySQL マクロではサポートされません	
KeySQLDelete	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLExecute	Execute	KeySQLExecute("[Book.xls]Sheet1","A1", 0,0) ↓ Execute(" エ ク セ ル 2007","[Book.xls]Sheet1","A1",0,0) 第 1 引数にソフトウェア名を指定します。
KeySQLLogin	KeySQL マクロではサポートされません	
KeySQLUpdate	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
KeySQLExecSql	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	



## DDE マクロを KeySQL 8 で読み込む

### 概要

DDE マクロでは、VBA のマクロコードのうち、DDEExecute 関数で KeySQL の関数を呼び出している箇所のみ、KeySQL マクロに変換可能です。

DDEExecute 関数で呼び出されている KeySQL の関数を抜き出し、2 個連続するダブルクォートを 1 個に書き換える必要があります。

### 手順

以下のコードは検索項目に SCOTT.EMP 表の EMPNO のみを指定し作成したマクロです。  
(コメントは省略)

```
~~~~~前略~~~~~  
DDEExecute Cn, "[Connect(ORACLE11GR1,scott,tiger,,,,,)]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
On Error GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[LocalAlias(TRUE)]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[Clear0]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[From(SCOTT.EMP)]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[Select(1,SCOTT.EMP.EMPNO,,,,)]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[ActiveSheet(一覧)]"  
Status = DDEAppReturnCode  
If Status <> 0 Then GoTo CloseAndQuit  
DDEExecute Cn, "[Execute(エクセル 2007,[Book1]Sheet1,A1,0,0)]"  
~~~~~後略~~~~~
```

## 書き換え対象の抽出

上記の DDE マクロから KeySQL の機能呼び出す関数を抜き出したものは次の通りです。

```
DDEExecute Cn,"[LocalAlias(TRUE)]"  
DDEExecute Cn,"[Clear0]"  
DDEExecute Cn,"[From("""SCOTT.EMP""")]"  
DDEExecute Cn,"[Select(1, ""SCOTT.EMP.EMPNO"" ,,,,)]"  
DDEExecute Cn,"[ActiveSheet("""一覧""")]"  
DDEExecute Cn,"[Execute("""エクセル 2007"" , ""[Book1]Sheet1"" , ""A1"" , 0, 0)]"  
DDEExecute Cn,"[Fetch(0)]"  
DDEExecute Cn,"[FetchEnd0]"
```

## 関数の書き換え

DDE マクロでは「DDEExecute Cn,"[関数]」という形になっているので、「関数」のみを抜き出します。

### 例 1

- DDEExecute Cn,"[LocalAlias(TRUE)]"

ローカル別名は KeySQL 8 では対応していないため削除します。

### 例 2

- DDEExecute Cn,"[Clear0]"

関数名を抜き出し、「Clear0」という形になります。

### 例 3

- DDEExecute Cn,"[From("""SCOTT.EMP""")]"

関数名を抜き出し、連続していたダブルクォートを 1 個ずつへ変更し「From("SCOTT.EMP")」という形になります。

## KeySQL マクロに変換できない関数

KeySQL マクロで読み込みが対応していない関数（「KeySQL マクロ読み込み機能の制限について」を参照）に加え、以下の関数は DDE マクロ専用のため、KeySQL マクロに変換しても読み込むことができません。

- Connect
- Login
- Fetch
- FetchEnd

例のように関数の書き換えを行い、KeySQL マクロ用に行末にセミコロンを入力したものが以下のものになります。

```
Clear();  
From("SCOTT.EMP");  
Select(1,"SCOTT.EMP.EMPNO",,,,,);  
Execute("エクセル 2007","[Book1]Sheet1","A1",0,0);
```

## KeySQL マクロファイルの作成

これを KeySQL マクロファイルとして保存し、KeySQL 8 の [KeySQL マクロの読み込み機能](#) を使用することで、検索項目や検索条件などを読み込む事ができます。

## OOoBasic マクロを KeySQL8 で読み込む

### 概要

OOoBasic マクロでは、KeySQL オブジェクト「KeySQL.」で KeySQL の機能呼び出ししている箇所のみ、KeySQL マクロに変換可能です。

KeySQL オブジェクトのプロパティで呼び出されている関数を抜き出し、KeySQL マクロ用に関数を書き換える必要があります。

### 手順

以下のコードは検索項目に SCOTT.EMP 表の EMPNO のみを指定し作成したマクロです。  
(コメントは省略)

```
Public Sub KeySQLSampleMacro()  
~~~~~中略~~~~~  
    KeySQL.connect("Oracle(OCI 接続)","ORACLE11GR1","scott","tiger","")  
    KeySQL.setLocalAlias(True)  
    KeySQL.clear()  
    KeySQL.setFrom("SCOTT.EMP")  
    KeySQL.setSelect(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","","",False,False)  
    KeySQL.setKeySQLSheet("一覧")  
    KeySQL.execute("", "", 0, 0)  
CloseAndQuit:  
    KeySQL.logout()  
End Sub
```

## 書き換え対象の抽出

上記の OoBasic マクロから KeySQL の機能呼び出す関数を抜き出したものは次の通りです。

```
KeySQL.connect("Oracle(OCI 接続)","ORACLE11GR1","SCOTT","tiger","")
KeySQL.setLocalAlias(True)
KeySQL.clear()
KeySQL.setFrom("SCOTT.EMP")
KeySQL.setSelect(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","",",",False,False)
KeySQL.setKeySQLSheet("一覧")
KeySQL.execute("", "", 0, 0)
KeySQL.logout()
```

## 関数の書き換え

KeySQL 7 で出力された OoBasic マクロをテキストエディタ等で開き、KeySQL マクロ用に「KeySQL.」の削除、関数名の書き換えを行います。関数名書き換えの詳細は、後述する「[OoBasic マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表](#)」を参照してください。

### 例 1

- KeySQL.connect("Oracle(OCI 接続)","ORACLE11GR1","SCOTT","tiger","")  
KeySQL マクロではログインを行わないので削除します。

### 例 2

- KeySQL.clear()  
KeySQL マクロ関数の Clear() へ関数名を変更します。

### 例 3

- KeySQL.setFrom("SCOTT.EMP")  
KeySQL マクロ関数の From()へ関数名を変更します。

以上のように対応する関数の書き換えを行い、KeySQL マクロ用に行末にセミコロンを追加したものが次のものになります。

```
Clear();
From("SCOTT.EMP");
Select(1,"SCOTT.EMP.EMPNO","",",",False,False);
Execute("", "", 0, 0);
```

### KeySQL マクロファイルの作成

書き換えを行ったら、KeySQL マクロファイルとして保存し、KeySQL 8 の [KeySQL マクロの読み込み機能](#) を使用することで、検索項目や検索条件などを読み込む事ができます。

#### OOoBasic マクロから KeySQL マクロへの関数書き換え対応表

OOoBasic 用マクロ	KeySQL マクロ	変換例 関数名・引数の変更の有無
setKeySQLSheet	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
setBindVariable	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
clear	Clear	clear() ↓ Clear() 関数名を変更／引数変更なし
setCondition	Condition	setCondition(w,"A.B = C.B AND A.D>=10") ↓ Condition(w,"A.B = C.B AND A.D>=10") 関数名を変更／引数変更なし
setCrossCondition	CrossCondition	setCrossCondition("クロス集計 2","A.D = 10") ↓ CrossCondition("クロス集計 2","A.D = 10") 関数名を変更／引数変更なし
setReplaceString	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
setFrom	From	setFrom("DEPT a,EMP b") ↓ From("DEPT a,EMP b") 関数名を変更／引数変更無し

insertRow	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
loadFile	Load	loadFile(BIND,"test",TRUE) ↓ Load(SETUPD,"test") 関数名を変更/ 第1引数が SETUPD または FILE の時のみサポート。 第3引数は無視され、常に FALSE として扱われます。
setLocalAlias	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
logout	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
setParameter	SetupD	setParameter("Option.ShowCountAtSelect = Off") ↓ SetupD("Option.ShowCountAtSelect = Off") 関数名を変更/引数変更無し
addCrossSide	CrossSide	addCrossSide("クロス集計 1",1,"地区",A) ↓ CrossSide("クロス集計 1",1,"地区",A) 関数名を変更/引数変更無し
addCrossTop	CrossTopIndex	addCrossTop("クロス集計 1","商品名",D) ↓ CrossTop("クロス集計 1","商品名",D) 関数名を変更/引数変更無し
addCrossTotal	CrossTotal	addCrossTotal("クロス集計 1",1,"販売個数",S,"合計") ↓ CrossTotal("クロス集計 1",1,"販売個数",S,"合計") 関数名を変更/引数変更なし

deleteRow	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
executeSQL	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
execute	Execute	<pre>execute("[Book.xls]Sheet1","A1",0,0) ↓ Execute("           エ           ク           セ           ル 2007","[Book.xls]Sheet1","A1",0,0) 関数名を変更／ 第1引数にソフトウェア名を指定します。</pre>
saveFile	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
setSelect	Select	<pre>setSelect(1,"MAX(DEPT.DEPTNO)","DEPT NO","MAX 値") ↓ Select(1,"MAX(DEPT.DEPTNO)","DEPTNO ","MAX 値") 関数名を変更／引数変更無し</pre>
updateRow	KeySQL マクロの読み込み機能ではサポートされません	
connect	KeySQL マクロではサポートされません	